

エコサイクル オーロラII・操作マニュアル

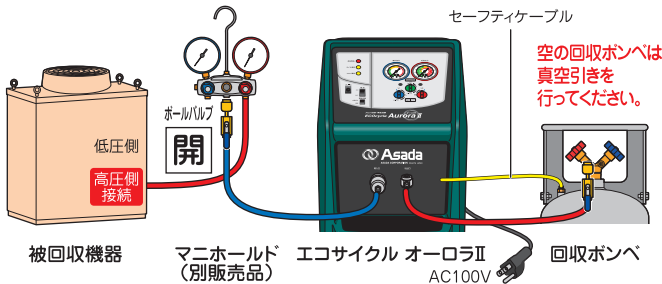
注意

本マニュアルは操作手順の概略を示したものです。
ご使用前に、正しく安全にお使いいただくため、
取扱説明書を必ずお読みください。

フロン回収・再生作業

一般的な回収・再生の操作方法について示します。

1 ホース類の接続と排気



① ホース・コード類と各バルブを上図のようにセットする。

※ フィルタの取付方向に注意すること。
回収量 90kg または詰まったときに交換すること。

② ホース(赤)のボールバルブを **開**



③ 運転切替スイッチを **連続**



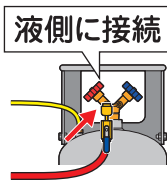
④ 電源スイッチを **ON**



⑤ 吸引圧力ゲージが真空に達したら、
取入口バルブを **セルフクリーニング**



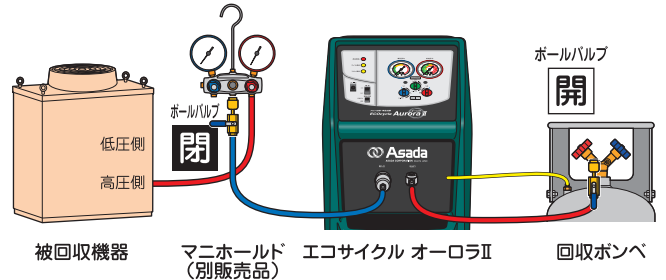
⑥ 再度、吸引圧力ゲージが真空に達したら、
一旦外したホースをボンベの液側に **接続**



⑦ 電源スイッチを **OFF**



2 回収・再生作業



① 各バルブを上図のように操作する。

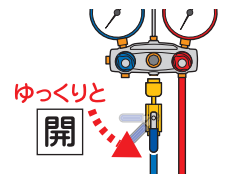
② 運転切替スイッチを **自動停止**



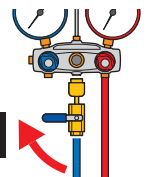
③ 電源スイッチを **ON**



④ 取入口側ホースのボールバルブを **ゆっくりと開**



⑤ 吸引圧力が-0.03MPaで本機は **自動停止**



⑥ 取入口側ホースのボールバルブを **閉**

⑦ 電源スイッチを **OFF**

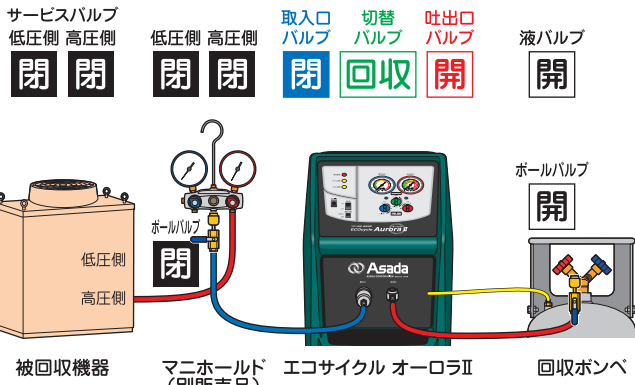


⑧ 被回収機器とマニホールドの高圧側を **閉**

回収終了後5~10分そのまま放置して、
冷凍機油に溶け込んだフロンの蒸発を待ってください。
所定の圧力より圧力が上昇した場合は、再度回収を実施してください

冷媒種類				充填量	所定の圧力
R12、R22、R407D、	R500、R134a、R410A、	R502、R412A、R507A、	R509、R407C、R404A	2kg未満	0MPa
				2kg以上	-0.01MPa

3 フロン排出(セルフクリーニング)作業



① 切替バルブを **セルフクリーニング**

※ 自動停止の場合、吸入側の圧力が大気圧より高くないと始動しません。



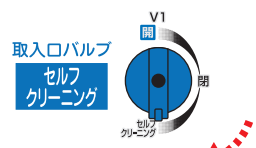
② 運転切替スイッチを **自動停止**



③ 電源スイッチを **ON**



④ 取入口バルブを
吸引圧力を 0.2MPa 以下に
調整しながら **セルフクリーニング**



⑤ 本機が自動停止したら、
回収ポンペの液バルブを **閉**

吸引圧力は **0.2MPa 以下に調整**

⑥ 吐出口バルブを **閉**
吐出口側ホースのボールバルブを **閉**

⑥ 電源スイッチを **OFF**

※ 吐出側には、少量のガス状冷媒が残っています。
真空引きされたポンペを使用して、
本装置及びホース内のフロンを回収してください。



⑦ ホースの接続を外す。

すべての回収作業が終了

▲ 注意

- 電源の電圧降下にご注意ください。
- 防止方法**

 - ・できるだけ元電源、回収装置単独で使用する。
 - ・やむを得ず延長コードやリールコンセントを使用する場合は、線径の太いものを使用する。
 - ・コードリールは、巻いたまま使用しない。
 - ・昇圧器(アップトランス)を使う。
 - ・発電機を使う。

- 周辺温度が高い場合、ポンペの温度・圧力の上昇にご注意ください。
- 対処方法**

 - ・真空引きされた予備のポンペと交換する。
 - ・サブクールによりポンペを冷却する。
 - ・回収装置の吸引側の圧力を下げて使用する。
 - ・別売のクーリングユニットを使用する。

回収時間の短縮方法

- 回収ポンペ内の圧力上昇を抑える (夏場での回収/効率的な段取り)方法

- ・日陰の風通しの良い場所に回収機器を設置。
- ・回収装置や回収容器を床に直置きせず、床から1m程度はなす。
- ・予備の回収容器を日陰に数本用意しておく。
- ・周辺温度が高い場合には、空冷凝縮器の効果が低い為、扇風機等で凝縮空気量を増加させる。
- ・回収容器を濡れ雑巾などを利用して冷却する。
- ・周辺温度が高い場合には、回収容器を扇風機などで強制冷却させる。
- ・クーリングユニットやサブクールを適時使用する。
- ・できるだけ液回収を優先して回収する。
- ・回収装置の吐出圧力が高ならないように、吸引圧力を調整し、回収作業を行う。

- 機器内の圧力低下による効率低下を防ぐ (低温・凝縮液化/効率的な段取り)方法

- ・液回収優先した後、液・ガス両側ポートから回収。
- ・対象機器のクランクケースヒータを通電したままにする。
- ・アキュムレータ等に結露したら加温・振動し蒸発を促す。
- ・吸引圧力が 0.1MPa 程度で、回収が進まない場合、作業を休止し圧力上昇を待って回収を再開。
- ・複数の機器を同時接続し、低温凝縮の影響を低減させる。
- ・縦配管が長い場合は、配管下部からも回収を行うことや配管下部を加温・振動し蒸発を促す。

Asada アサダ株式会社

本社 / 名古屋市北区上飯田西町3-60 TEL (052) 911-7165 E-mail: sales@asada.co.jp

支店 / 東京・名古屋・大阪	海外事業所	工場
営業所 / 札幌・仙台・さいたま・横浜 広島・福岡	アサダ・タイランド社 (バンコク) 台湾浅田股份有限公司 (台北) アサダ・ベトナム社 (ホーチミン) アサダ・インド社 (ムンバイ) 上海浅田进出口有限公司 (上海) アサダ USA (カリフォルニア)	(愛知県・犬山市) 犬山工場 アサダ第一精工株式会社 (松山市) アサダ・マシンナリー社 (バンコク)

www.asada.co.jp

製品の使用方法に関するお問合せは
☎ 0120-114510 (イイシゴト)
(受付時間) 9:00-12:00 / 13:00-17:00 (土・日・祝日)

出典：冷媒回収推進・技術センター「冷媒回収処理技術」
(社)日本冷凍空調設備工業連合会「フロン回収ポケットマニュアル」